

とうわ  
藤和けんこう通信



2016年1月号 VOL.63

本年もよろしくお願い致します。

発行元：藤和マッサージ（訪問マッサージ・はりきゅう）  
相模原院042-855-0420 町田院042-851-7528 海老名院046-204-5482

本年もよろしくお願い致します！



池田裕美 馬場悦子 野々村颯 佐藤文子 石井武司 若本大輔 大野佑介 長谷川佳汰 代永涼子 栗原賢 岡本尚弥 尾崎弘康 細田篤矢 小形紗織  
須藤 新 長谷川加代 佐藤浩嗣 板垣 鋭司 榎本多佳子 小木野貴史 近藤マチ子 岩本友保 石井 旭 中村匡志 矢部恵 袴 潤平 渡邊真之 添田真理子

何事も思いやりを持って対応します

謹賀新年

あけましておめでとうございます。本年も『何事も思いやりをもって対応』し、患者様に喜んでいただける施術に取り組んで参ります。また、関係者の皆様と密に情報交換をさせて頂き、よりより施術を行っていきたく思っております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

平成28年1月 代表須藤新



新春健康常識 うそ？ほんと？

一度硬くなった血管は元に戻らない？

×

いったん硬くなった血管は元に戻らないと考えられていましたが、最近の研究で、ストレッチで筋肉を伸ばすと血管年齢が若返ることが分かりました。これはストレッチの刺激により全身の細胞や組織、筋肉を支えるコラーゲンが再生し、血管が軟らかくなるためです。1日10分程度のストレッチが効果的です。

# 院内研修会を開催 鍼実技編

12月7日月曜、町田市民フォーラムにて町田院主催の院内研修会を開催しました。町田院の大野佑介さんが講師となり、鍼の実技練習を行いました。鍼を刺した後に、片手挿管と言われる片手で鍼の管に鍼を戻す一連の動きを練習しました。また、当日は頭痛のあるスタッフがおり、実際に頭痛の施術も行いました。



まずは、手の動きを良くするための基礎運動を全員で行いました↓



## ミス・トラブル報告及び改善報告

### 報告①休み連絡ミス

内容: 施術担当のやむをえない事情で、次回の訪問施術を休むことになった際に、施術者は患者様ご家族に『他の施術者が代理で訪問する』と伝えたが、スケジュール担当は代理訪問なしの休みと勘違いしていて、代理訪問の手配をしなかった。結果、訪問をすっぽかしてしまう形になってしまった。

原因: 訪問施術担当とスケジュール担当の連絡を的確に行えていなかった

改善点: 訪問施術担当とスケジュール担当の連絡を確実に行う 休む際は『代理訪問』があるのかないのか、はっきりさせる

### 報告②鍼道具 持参忘れ

内容: 事前情報ではマッサージのみだったが、初回体験に伺った際に鍼灸の希望があり、鍼の道具を持参し忘れたためマッサージのみの施術で鍼灸の施術ができなかった

原因: 常に鍼灸の道具を持参していなかったため

改善点: 常に訪問車両に鍼灸の道具を携帯して置いておくようにする

### 報告③領収書作成ミス

内容: 領収書の作成日付を本来は8月分としなければならないところ、誤って9月分と印字作成し、使用してしまった。後日、訂正した領収書を作成し、差し替えを行った。

原因: 作成時に8月と手入力するところを誤って9月と手入力してしまい、その後事務員2名で確認していたが、その確認時にも見落としてしまった。

改善点: 手入力で変更する箇所を強調して見落とさないように色を付ける。また手入力をするところは声に出して確認する。

小さなミスが大きなトラブルになる事を肝に銘じて再発防止・業務改善に努めます。



## 頭に磁気、痛みを緩和…家庭用電源で患者が操作

(2015年12月28日読売新聞)

神経が傷つくことで生じる痛みを和らげる新型の磁気刺激治療機器を大阪大など4大学と、メーカーの帝人ファーマ(東京)が共同開発し、この機器を使った患者への臨床試験(治験)が阪大病院で始まった。機器は家庭用電源で患者が操作できるよう作られており、将来は在宅での治療も可能になりそうだ。治験を行うのは同大の斎藤洋一特任教授(脳神経外科)のグループ。脳卒中や背骨の手術後の痛み、重い糖尿病による手足の痛みなどが6か月以上続き、薬が効かない患者144人を対象とする。日本医療研究開発機構(AMED)から資金を受けた。同機器は、電気が流れるコイルから発する磁気で、頭蓋骨の上から痛みを感じていると考えられる脳の一部を刺激する。磁気が神経に影響し、痛みが和らぐと考えられている。副作用としては頭皮の痛みのほか、まれに、けいれんを起こすことがある。治験では、10分間の磁気刺激を5日間連続で受けてもらう。海外製品を使った同大の研究では、1回の治療を受けた120人の4割で痛みの程度が3割以上低下したが、効果が長続きしなかった。効果の持続と家庭で連日刺激できる機器を目指し、今回の開発が行われた。

## 高齢者への多剤投薬対策、厚生労働省検討案に「上下関係」の壁？

(2015年12月28日読売新聞)

厚生労働省は来年度の診療報酬改定で不適切な多剤投薬を減らす方針を掲げ、今年度中に具体策を詰める。いくつもの病院に通う高齢者の服薬情報を集めて管理する「かかりつけ薬局」が多剤投薬を見つけて医師に連絡する。国内外の学会などが作成した高齢者には避けるべき薬のリストを参考に医療機関が不適切な投薬を自ら減らしたり他の医療機関に連絡したりする——などが検討されている。投薬を減らした医療機関や薬局への診療報酬を手厚くする方針だ。不適切な処方減らせば、膨張する社会保障費の削減にも結びつく。副作用の治療費が浮くだけでない。高齢者がいったん体調を崩し入院すると、体力が弱り、自宅に戻れず介護施設に移らざるを得ない例も少なくない。大量に処方された薬の飲み残しも多く、これを減らすことで年間100億円超の薬剤費が削減できるという試算もある。だが、医師からは「他の医師の処方に口を出せない」との声が根強い。全薬局の7割が医療機関近くに開設する「門前薬局」で、どこまで汗をかく薬局が出てくるかは不透明だ。「医師と薬剤師は上下関係があり、連携は難しい」との指摘もある。徳田安春・地域医療機能推進機構顧問は「本来はかかりつけ医が責任を持って薬の調整をすべきだが、当面は高齢者の薬に詳しい総合診療や老年医学の医師が専門外来を作って適切な処方に変える方法もある」と話す。いかに実効性のある仕組みを作れるかが課題となる。

## 子供のヘディングを制限…米サッカー協会が指針

(2015年12月5日読売新聞)

アメリカンフットボールやアイスホッケーなどで、選手同士の激しい衝突による脳しんとうが訴訟問題となっている米国で、米サッカー協会は2日、子供たちに対してヘディングを制限する新たな指針を発表した。発育段階にある子供たちの健康を守ろうとする新たな取り組みが注目されている。指針は来年1月から適用され、U-11(11歳以下)の世代では練習、試合ともにヘディングが禁止となる。U-12、13の世代でもヘディングの練習は週30分間まで、回数も1人15~20回までに制限される。協会では「ボールを競り合う機会を減らすことで、頭同士の衝突や相手選手の肘が頭に当たる、または頭から地面に落ちるなど、脳しんとうにつながる事故は減るはず」と説明する。導入のきっかけとなったのは昨年夏、保護者らのグループが、賠償金などの補償でなく制度としての対策を求めて同協会などを相手に起こした訴訟だった。今年11月、合意に達し、原告側弁護士は「主な目的は達成できた。子供たちの安全性向上に役立ててうれしい」とコメントした。

発行元

無料体験マッサージ、いつでもお気軽にどうぞ  
【医療保険適応 訪問マッサージ・はりきゅう】